



# 男性産業従業員における 歯周疾患有病と医療費



○森田一三、久田和明\*、宮田泰\*、青島忍\*、石川邦治\*、江坂一幸\*、  
稻越紳也\*\*、中垣晴男  
愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座 \*刈谷市歯科医師会 \*\*豊田自動織機健康保険組合

**【目的】**これまでに多くの研究が歯周病と糖尿病、心疾患、骨粗鬆症などの全身疾患との関連性について報告している。多くの研究は歯周病有病と全身疾患の関連について疫学的な報告や、その機序について述べているものがほとんどである。そこで、今回、歯周病有病と全身の疾患の関連について医療費の側面から検討を行うことを目的に本研究を行った。

**【対象および方法】**対象者は愛知県内のA企業に勤務する30歳から59歳の男性で、2008年、2009年の2年間に、歯科の健康診査を受けた者である。歯科健康診査は歯科医師6名が行った。歯科健康診査では歯や歯周疾患、口腔粘膜の診査をおこなった。今回用いた歯周疾患はWHOのCPIを用い10歯の部分診査法で評価を行った。測定した6分画のCPIのコードが0、1、2のみの者を歯周疾患が見られない者、コード3、4が認められた者を歯周疾患のある者とした。一方、医療費(点数)は社会保険支出を用いた。疾病的分類は社会保険表章用国際疾病分類表に基づき、妊娠、分別及び産じよく、周産期に発生した病態の2項目を除く17分類ごとに医療費を求めた。また、歯周病とかかわりのあると報告されている糖尿病、神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害、高血圧性疾患、虚血性心疾患の細分類については別に医療費を求めた。求めた医療費の平均値の差を、歯周病の有無および10歳ごとの年齢群の2つの因子による2元配置分散分析を用いて求めた。

**【結果】**対象者を10歳ごとの年齢群に分けたところ、30歳代は399名、40歳代は540名、50歳代は288名であった。

循環器系の疾患の医療費は歯周病の有る群では $2351 \pm 606$ (平均±SE)点であり、歯周病の無い群の $845 \pm 111$ 点より有意に( $p < 0.05$ )高かった(図1)。また、眼及び付属器の疾患の医療費は歯周病の無い群では $317 \pm 39$ 点であり、歯周病の有る群の $173 \pm 49$ 点より有意に( $p < 0.05$ )高かった。

疾病の細分類別では、糖尿病の医療費は歯周病の有る群では $1084 \pm 362$ 点であり、歯周病の無い群の $316 \pm 76$ 点より有意に( $p < 0.05$ )高かった(図2)。神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害の医療費は歯周病の有る群では $456 \pm 256$ 点であり、歯周病の無い群の $38 \pm 13$ 点より有意に( $p < 0.01$ )高かった(図3)。高血圧性疾患の医療費は歯周病の有る群では $1359 \pm 323$ 点であり、歯周病の無い群の $504 \pm 72$ 点より有意に( $p < 0.05$ )高かった(図4)。

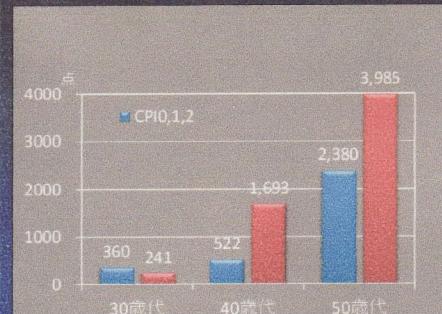


図1 歯周疾患有病と循環器系の疾患の医療費



図2 歯周疾患有病と糖尿病の医療費



図3 歯周疾患有病と神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害の医療費



図4 歯周疾患有病と高血圧性疾患の医療費

**【考察】**本研究の結果は、これまで報告されている、歯周病と全身の疾患、特に、糖尿病やストレス、心疾患との関連性を支持するものであり、歯周疾患の改善が医療費全体を低くする可能性を示唆するものと考える。

**【結論】**歯周疾患有病者は、糖尿病、神経症性障害・ストレス関連障害及び身体表現性障害および高血圧性疾患の医療費が高かった。